



表 3 . 4 . 3 吉野川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理

対象ゾーン	流域全般	下・中流	中・上流
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>「資料」の出現魚種で概ね妥当。</li> <li>本流の上流にはアマゴ・イワナ・ニジマス、中・下流にはアユ・ウナギ等が主に生息している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>池田ダム下流～河口の本流に分布する主な魚種はアユ・ウナギ・ナマズ・ハス・ウグイ・コイ。</li> <li>アマゴは支流に生息、本流に生息してない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本流上流に分布する主なサケマス類はアマゴ・イワナ・ニジマス。</li> <li>イワナは主に支流に生息している。</li> <li>アマゴは早明浦ダム上流下流、池田ダムまでの本流に生息。池田ダム下流はアユの生息に適している。</li> </ul>
再生産に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>本流に産卵等の保護水面は無い。</li> <li>本流でアユ・アマゴが再生産している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3～4年前まで人工産卵床造成したが、現在は対応してない。</li> <li>アユは本流の緩流域、水深1～2mの小石・じ砂利地で産卵。</li> <li>アマゴは支流の砂地で産卵。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アマゴは放流されているが、本流においても再生産が行われている。</li> </ul>
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>アユ・アマゴ・ウナギ等を放流している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アユ・アマゴ・ウナギ等を放流している。</li> <li>アユ放流量は吉野川全体で年20トンで、漁獲アユの99%が天然アユで放流アユは1%程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アユ・アマゴ・ウナギ・コイを放流している。</li> <li>過去にイワナ・アマゴ発眼卵埋設放流を実施した。</li> </ul>
河川環境に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム堰等による魚類の生活史、河川環境等への影響が懸念されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洪水時、池田ダムの放水により汚泥が下流に流れて底生性生物に影響が及ぶ。</li> <li>ダム以外に第十堰・魚道なども生物相の障壁となっている。</li> <li>放流だけでなく、再生産しやすい河川づくりが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早明浦ダム～池田ダムは夏季水温22以下である(アマゴが生息しやすい)。</li> <li>早明浦ダムにより下流の魚類は遡上できない。</li> <li>早明浦ダム上流から流下したアマゴはダム貯水池で銀化(サツキマス)する。</li> </ul>
過去の情報		<ul style="list-style-type: none"> <li>早明浦ダム建設時(着工:昭和38年、完成:昭和50年)に汚水が流れ、底生生物に影響を与えた。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流魚と天然魚の判別は困難である。</li> <li>各魚種の生活様式等があるので魚類分布による国一律の類型区分は困難。</li> <li>水温は年平均だけでなく、季節別・月別等で見る必要がある。</li> </ul>		

「平成16年度水生生物類型あてはめ調査」業務により実施したヒアリング結果をとりまとめたもの。

対象者：徳島県立博物館、高知県内水面水産試験場、吉野川西部漁業協同組合、吉野川漁業協同組合